

3 保護者アンケート集計結果・考察

年度ごとの数値は「よくあてはまる」「ややあてはまる」を合計した割合を示す。

◎は5ポイント以上の上昇 ○は5ポイント未満の上昇

－は1ポイント未満の増減

△は5ポイント未満の下降 ×は5ポイント以上の下降 を示す。

問1 子どもは、学校の勉強に意欲的に取り組んでいる

R2 82.9% R3 78.3% R4 77.9% (－)

児童の学習意欲について、十分でないと考えている保護者の方が2割程度いる。わかる授業・楽しい授業を展開するよう授業改善に努めてまいりたい。また、「家庭学習のてびき」や「家でもしっかり学習しよう週間」等を活用し、家庭との連携を図りながら、家庭学習習慣の確立にも努めたい。

問2 子どもの学力の状況はよくわかっている

R2 95.5% R3 94.0% R4 90.4% (△)

肯定的な回答割合は9割を超えており、児童の学力状況はよく理解されている。今後も、学校での学習・生活の様子を保護者に伝え、家庭との連携を図りながら、学力向上に努めていきたい。

問3 学校は、基礎的な学力定着に熱心に取り組んでいる

R2 89.8% R3 91.5% R4 84.7% (×)

肯定的な回答割合は昨年度より減少している。児童アンケートにおいても減少傾向である。今後も、授業改善を図るとともに、効果的なドリル学習等に取り組み、各教科の基礎・基本を定着させ、学力向上に努めたい。

問4 学校は、子どもの体力づくりに熱心に取り組んでいる

R2 88.7% R3 84.3% R4 80.8% (△)

今年度は、放課後の体操練習や水泳練習、陸上運動などに取り組むことができた。今後も、外部講師を招いたり、体育科の授業での運動量の確保を図ったり、休み時間等における活動の充実を図り、児童の体力づくりに努めたい。

問5 学校は、子どもの学習規律の定着に熱心に取り組んでいる

R2 88.7% R3 90.4% R4 81.7% (×)

肯定的な回答割合は昨年度より減少している。研修をとおして、教職員の力量を高めるとともに、家庭と連携し、学習規律の定着に取り組みたい。

問6 子どもは、家庭学習（宿題）をきちんとしている

R2 92.1% R3 92.8% R4 84.6% (×)

「家庭学習のてびき」や「家でもしっかり学習しよう週間」等を活用し、家庭との連携を図りながら、家庭学習習慣の確立に努めていきたい。

問7 子どもは、自分のいいところを理解している

R2 75.0% R3 66.3% R4 74.1% (◎)

肯定的な回答割合は昨年度より増加している。学校や家庭においては、褒める、話しかける、話を聞く、認める場面をつくることで、自己肯定感を高めさせる取り組みをお継続していきたい。また、規則正しい生活習慣を身につけることは、自己肯定感を育む上で重要であり、今後は、より一層家庭との連携を図りたい。

問8 子どもがよいことをしたときは、積極的に褒めている

R2 93.2% R3 93.9% R4 93.3% (－)

肯定的な回答割合は昨年度とほぼ同様である。自己有用感、他者との関わりから児童が自ら感じとるものであり、「存在感」「承認」「貢献」などの要素である。このことから、家庭において、児童を肯定的に受け入れることで育みやすくなると考える。

問9 子どもは何事にも粘り強く取り組む

R2 60.2% R3 53.1% R4 56.8% (○)

問10 子どもが粘り強く取り組めるよう、家庭でも応援している

R2 82.9% R3 85.5% R4 91.4% (◎)

社会環境の変化が激しさを増し、先行き不透明なこれからの社会を生き抜く力を育成することが大切である。困難な状況に直面したときに、自ら問題を発見し解決する力や生涯にわたり学び続ける力、他者と力を合わせて乗り越え、失敗してもその経験を今後の糧とする、たくましさとしなやかさを身につけられるよう、家庭と連携、協力して推進していきたい。

問11 子どもは、自分の身の回りのことを自分でしている

R2 80.7% R3 78.3% R4 72.1% (×)

「自分でできることは自分でする」ことは、子どもが将来社会に出た時に、社会の中で役割や責任を果たすことの基礎をつくることになる。子どもが小さい時は、自分のことがなかなかうまくできず、子どものために先回りして世話を焼いてしまいがちであるが、子どもが自分で考え、判断し、行動できるようになるために、子どもの成長に合わせて、徐々に口出しや手出しを減らしていくことが必要である。小さな成功と失敗を繰り返しながら成長していく子どもの姿を、少しずつ距離をとりながら、でも決して気持ちは離すことなく、見守っていけるよう、家庭との連携を一層図りたい。

問12 子どもは、ルールを守る意識が育っている

R2 88.8% R3 88.0% R4 93.3% (◎)

集団生活を通して、ルールやマナーを理解し、規範意識を育てられるよう、学校・家庭・地域が一体となって取り組んでいきたい。

問13 子どもは、先生、友だち、近所の人にすすんであいさつをしている

R2 71.6% R3 68.7% R4 80.7% (◎)

肯定的な回答割合は昨年度より増加している。継続した挨拶運動の効果も出てきたものと思われる。「あいさつ」は、人と人とのつながりを深め、地域の連帯感を強めるとともに、「声かけ」は相手とのコミュニケーションを深め、思いやりの心を醸成することにつながる。そのため、家庭においても、児童の発達段階に応じたあいさつや声かけを行ったり、家庭内でのあいさつを習慣づけたりすることも大切になってくる。今後とも、家庭、学校、地域が連携し、継続して取り組んでいきたい。

問14 子どもは、人のことを大切にして、友だちと仲良くしている

R2 97.7% R3 92.8% R4 94.3% (○)

肯定的な回答割合は9割を超えている。自らの主体性を尊重され大切にされた子どもは、自分も大切にし、友達の主体性も尊重し、大切にすることができる。

友達との遊びや体験の中で、人と関わりながら、あいさつをする、自分の思いや考えを伝える、相手の思いを聞く、話し合うという「コミュニケーション力」、ルールや約束を守ろうとする（規範意識）、認め合う、友達を思いやる、自分の気持ちをコントロールしようとする「協同する力（社会性）」を育むことで、自分も友達も大切に子どもを育成できるよう、家庭と連携を図りながら、取り組んでいきたい。

問15 子どもと社会や将来のことを話し合っている

R2 63.7% R3 65.1% R4 70.1% (◎)

肯定的な回答割合は昨年度より増加している。家族との触れ合いは、児童が基本的な生活習慣、生活能力、人に対する信頼感、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーなどを身に付ける上で重要な役割を担うものである。さらに人生を自ら切り拓いていく上で欠くことのできない職業観、人生観、創造力、企画力等も家庭教育の基礎の上に培われるものであることから、今後とも家庭との連携を図りながら推進したい。

問16 子どもは、学校のことをよく話してくれる

R2 84.1% R3 84.3% R4 79.9% (△)

児童アンケートとほぼ同様の結果である。家庭での会話の時間をもつことが大切である。子どもたちは人との関わりの中で多くのことを学ぶため、会話の場を持つことにより、より高い思考力をや表現力、豊かな人間性等を身に付けるものとする。今後は、家庭で児童との会話の時間を増やせるような話題づくりができるように努めていきたい。

問17 子どもは、楽しんで学校に行っている

R2 92.0% R3 86.8% R4 79.8% (×)

肯定的な回答割合は昨年度より減少している。学校が楽しくなる要因には、学習の状況や人間関係等、様々なことが考えられる。わかる授業、楽しい授業を展開するとともに、これまで以上に家庭との連携を深め、一人一人の状況を把握しながら楽しい学校生活が送れるよう取り組んでいきたい。

問18 子どもが交通ルールを守るよう、働きかけている

R2 97.7% R3 91.6% R4 93.3% (○)

様々な機会を通じて、家庭や地域、警察等の関係機関と連携を図りながら、安全教育に取り組んでいきたい。

問19 子どもと防災のことについて、家で話し合っている

R2 70.5% R3 68.7% R4 66.4% (△)

肯定的な回答割合が減少している。防災教育は学校だけでなく、家庭での話し合いが重要である。いつ、どこで起こるかわからない災害に向けて、家庭や地域と連携した避難訓練や防災教育等を行うことで、防災に関する意識を高めたい。

問20 学校は、いじめや生徒指導の問題について、素早く対応してくれる

R2 86.4% R3 92.8% R4 83.7% (×)

肯定的な回答割合は昨年度より減少している。関係機関と連携した組織的で迅速な対応を図り、事案一つ一つに丁寧に対応するとともに、家庭・児童との信頼関係を構築していきたい。

問21 学校から、情報が十分発信されている

R2 82.9% R3 85.5% R4 74.1% (×)

肯定的な回答割合は昨年度より減少している。「学校だより」や「学年だより」,
「保健だより」や「ホームページ」等を充実させることにより、情報のやりとり
をより密にしていきたい。また、参観日や様々な行事等を通じて、本校の教育活
動に対する保護者の信頼が十分得られるように努めていきたい。

問22 学校行事などに積極的に参加している

R2 85.2% R3 86.8% R4 88.4% (○)

肯定的な回答割合は昨年度より増加している。問21「学校から、情報が十分
発信されている」の関連項目であり、積極的に行事参加していただけるような
情報発信に努めたい。

問23 子どもは進んで読書している

R2 55.7% R3 44.6% R4 45.2% (－)

肯定的な回答割合は低い。学校においても読書活動をさらに推進するとともに、
家庭では、低学年では家の人の読み聞かせ、中学年では交互に読み合う、高学年
では一緒に読書を楽しむなど、子どもの実態や家庭の状況に合わせて取り組んで
いただけるよう、より一層家庭との連携を図りたい。

問24 子どもはテレビ、ゲーム、スマホ等の約束を守って使用している。

R2 52.3% R3 51.8% R4 51.0% (－)

肯定的な回答割合は5割程度と低くなっているが、児童アンケートでは肯定的
な回答割合は81.6%であり、保護者アンケートとは大きな隔たりがある。普段か
ら、保護者が積極的に子どもに声をかけ、コミュニケーションを図るとともに子
どもが守れる具体的なルールを設定するなど、安全に賢く利用できる方法を考え
ていく必要がある。今後も保護者と連携を図りながら、情報モラル教育等に取り
組んでいきたい。

問25 家庭では「早寝・早起き・朝ご飯」を心がけている

R2 89.8% R3 80.7% R4 81.7% (○)

児童の基本的な生活習慣の確立や生活リズムの向上をめざし、今後も、家庭との
連携に努めたい。

問26 学校はPTAや地域と連携して開かれた学校づくりに努めている

R2 85.2% R3 93.9% R4 78.9% (×)

肯定的な回答割合が昨年度より減少している。本校における教育活動の成果を
検証し、学校運営を改善することで、保護者、地域から信頼される学校づくりを
より一層すすめていきたい。

問27 学校は子どもの安全確保、健康管理のための取組を行っている

R2 95.5% R3 96.4% R4 88.5% (×)

教育活動全体を通じて、安全教育、健康教育を推進するとともに、保護者、地
域との連携や情報交換を密にし、児童が安心して学校生活が送れるように取り組
んでいきたい。